

松本市基幹相談支援センター会議・研修会報告

会議・研修会名 令和8年度第1回支援研究部会	開催日：令和8月4月13日（月） 時 間：10:30～11:30
参加者構成機関名 アルプス福祉会第2コムハウス、障がい者相談支援センターあいほっと、障がい者相談支援センター 中信、松本市社会福祉協議会グループホーム水汲、結いの街、松本市こども発達支援課、松本市障がい 者基幹相談支援センター	計9名

会議内容
1. これまでの専門部会や連絡会で共有された取り組みと課題 (1) 活動報告と課題 ア 医療的ケア児者等事業所連絡会 <ul style="list-style-type: none">令和8年1月27日(金)に開催し、複数事業所が参加する中で、職員確保の困難さや経営の不安定さ、社会資源の減少について共有された。成人期への移行支援やきょうだい児支援の必要性が課題として挙げられた。災害時の避難において、地域住民との協力体制の構築が必要である。グループホームでの一時避難受け入れなど相互支援の必要性が共有された。医療的ケアが必要な利用者については、避難先の確保や電源確保が課題となっている。民生委員や保健師を含めた多職種連携により、具体的な避難行動の整理が進められている。地域との関係づくりが、防災対応の前提として重要である。 イ 強度行動障害プロジェクト <ul style="list-style-type: none">地域資源マップづくりの取り組みを進めており、昨年度末までに集約した情報を整理し、今年度周知に向けた整理をする。障がい者支援施設の役割について意見交換を行う場として、座談会の開催を企画している。過去に実施したアンケート調査の結果を活用できないか検討する。 ウ 生活介護事業所連絡会 <ul style="list-style-type: none">生活介護事業所連絡会を開催し、感染症対応や支援上の困りごとについて情報共有を行った。感染症対応の基準が事業所ごとに異なる実態が明らかとなった。支援に関しては、意思決定支援と利用者ニーズのずれ、利用者の高齢化に伴う支援

内容の変化が課題として共有された。

- ・ 事業所間での取り組み（生産活動や余暇活動）の情報共有の必要性が確認された。

エ グループホーム連絡会

- ・ 令和7年度第2回目のグループホーム連絡会では、世話人さん向けの研修会を開催し、基礎的な知識について講義とグループワークを実施した。グループワークでは、管理者の方を中心としたグループと世話人さんを中心としたグループに分け、意見交換を行った。

2. 今年度の専門部会活動について

本部会の活動として、基礎から専門的な内容まで順を追って学べる形で進めていくこととする。あわせて、子ども・成人・高齢といったライフステージごとの事例を共有しながら、支援の流れや質を高める視点に立ち、検討をする。また、支援研究部会だけで完結させるのではなく、他の専門部会とも連携しながら、分野を横断した取り組みとして進めていく。その際には、外部の参加者（オブザーバー）にも協力を求め、さまざまな立場から意見をもらいながら検討できる形で実施していく。具体的な検討内容は以下のとおりである。

(1) 人材不足等について

- ・ 人員の増加が見込めない現状を前提とし、「人が減ることを前提とした支援設計」が必要であるとの認識が共有された。そのため、事務作業の削減や役割分担の見直しを行い、人が必要な支援に集中できる体制の検討をする必要があるのではないかと。
- ・ また、福祉未経験者でも対応できるよう、基礎的内容から学べる研修の開催を考える。

(2) 支援の質の向上について

- ・ 事業所間および職員間で支援に対する理解や判断基準に差があり、支援の質にばらつきが生じている。
- ・ 居宅連絡会では、昨年度に行った課題抽出を基に、今年度は学習会形式に切り替えて基礎理解の共有を優先する方向性が示された。
- ・ 支援の標準化に向けて、事例を用いた具体的な共有と、段階的に学べる学習機会の必要性が共有された。

(3) 発達保障について（強度行動障害を含む複合的な課題）

- ・ 発達段階に応じた支援設計が十分に整理されておらず、未就学期から就学期、成人期への移行に課題が生じている。
- ・ 児童から成人後は生活介護に移行するが、支援体制の整理が難しい。